

Archive

群馬日仏協会アーカイブ 2012.09 — 2013.03

[9月総会]
第4回通常総会及び総会後懇親会

2012年9月30日[日]に第4回通常総会が、伊勢崎ブリオパレスで開催されました。個人法人を含め183会員の内56名が総会が出席し、委任状を合わせて3つの承認を頂き第4回総会が開催され、議案が上程されました。牛久保雅美会長のあいさつに始まり、昨年度の事業報告及び決算報告と承認新役員と本年度事業予定と予算が説明され承認されました。総会終了後に、スペシャルコンサートが約1時間行われ、参加された方々は、シャンソン歌手・原いわ子さんの歌唱力と伴奏者の松井裕さんの巧みな演奏に魅了されていました。先ず、植木副会長の挨拶が始まり天田顧問の乾杯で楽しい懇親会が始りました。その後、懇親会ではフランス料理のフレーズに舌鼓。乾杯は、本場フランス・シャンバーニュがブリオコローションの松井社長からなるまわ、それまた至福の時を倍増させました。参加された皆さんは、皆大満足で終了致しました。



[10月例会]
第5期・フランス語サロン
PART1 (12月 PART2)

2012年10月17日[土]、12月22日[土]には、学術部会主催で「フランス語サロン」が開催されました。第1回目は10月例会として、高崎の(株)イデアプランオフィスを会場に、第2回目は例会ではありませんが第2回目のサロンとして参加された会員のご自宅を会場にして開催されました。

第1回目は食欲の秋にちなみ「私のおすすめ料理」、第2回目は「冬休み」をテーマとして、まずはフランスでの自己紹介から始まり、与えられたテーマにそって、実際にフランス語でスピーチをしたり、日本語の原稿を用意しながら、お茶や軽食を取りながら、和気あいあいと開催されました。



[11月例会]
第2回ぐんまフランス祭

2012年11月22日[土]—24日[土]まで、群馬県庁舎1F、群馬県民ホール及び県民広場、2Fビジターで開催しました。今年も多数のご来場を頂き、予定の来場者を超える32,500人の方に楽しんでいただきました。今回は、在日フランス大使館クリスチャン・マセ大使及び夫人に来県頂き、オープニング及びテーブルカットセレモニーを行いました。大使には本県とフランスとの長年にわたる深い歴史と現在でも続く、経済をはじめとする本県とフランスの深い関係についてもお話しいただき、フランス大使館の群馬への深い認識を確認することができました。その後大使には、会場内をご覧頂きながら「本当にフランスそのものがここにあると言つてもいい」とおしゃって頂きました。



[12月例会]
ノエル例会

2012年12月16日(日)伊勢崎ブリオパレスにてノエル例会が開催されました。当日は日曜日の午後7時からの開催でしたが、大勢の会員の皆様が参加され盛大に開催されました。テーマは、フランスのとある地域で食す伝統的な「ノエル料理」でした。フランスは地域によってノエルの食事もその地域の食文化がそれぞれ異なります。そんなわけで、ブリオコロレーションのご協力でフランスのとある田舎のノエル料理をテーマに作られるフランス料理フランス料理によるスペシャルメニューを堪能させて頂きました。また、ビンゴゲームでは会員企業による沢山の協賛品による抽選会が行われ、参加者全員が当選した沢山の魅力的なカドードウノエルに皆さんご満足のようでした。



[2月例会]
Diatribes
エクスペリメンタル・ライブ

2013年2月23日(土)世界中で演奏しているインプロヴィゼーション・デュオ Diatribesが日本ツアーのために来日し、臨江閣でライブをおこないました。Diatribesは2004年より里斯スのジュネーブで活動する多動性インプロヴィゼーション・デュオ。オブジェ/パーカッション/エレクトロニクスのアンサンブル、濃密でおちついた音響、水平状態と断続とのあいだの緊張関係、ハイパー・アコースティックの感性、躍動的だが安定した手法でテクスチャとドローンを重ねた音響的マチエールを惜しみなくもじるミニマリズムにより定義されます。初めて聞く音楽に来場者も聴き入っておりました。

L'Association franco-japonaise de Gunma

一般社団法人群馬日仏協会会報『セラヴィ』●2013.04Vol.5



群馬日仏協会はフランスとの交流を図ることで、群馬とフランスとの友好関係が発展していくとともに、群馬県のブランド作り独自性の確立に貢献出来るとしています。

一般社団法人群馬日仏協会会報05号
発刊 2013年4月1日
発行人 牛久保雅美

お知らせ！
VOYAGE en FRANCE

鹿島茂コレクション
—パルビエ × ラブルール展—
アール・デコのモダンなイラストレーション
会場：群馬県立館林美術館
会期：2013年4月27日(土)～6月30日(日)
月曜休館

(ただし、4月29日(祝・月)、30日(火)、5月6日(祝・月)は開館)

料金表
一般 600円(税込) 大学生 300円(税込)
中学生以下 無料 手数料を含むお持ちの方にその介添人は無料
主催：群馬県立館林美術館、読売新聞社、美術出版社協賛会
後援：フランス大使館
協賛：ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン、日本テレビ放送網
協力：練馬区立美術館、ノマ、群馬日仏協会、(オフィス)ボーリジョン
群馬県立館林美術館 〒374-0076 群馬県館林市日向町 2003
TEL:0276-72-8188 URL:www.gmat.gunma.ed.jp



県立館林美術館においてフランス関連企画展「パルビエ × ラブルール展」が開催されます。フランス大使館が後援となり、ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン、日本テレビ放送網、練馬区立美術館、ノマ、群馬日仏協会、(オフィス)ボーリジョン

県立館林美術館においてフランス関連企画展「パルビエ × ラブルール展」が開催されます。フランス大使館が後援となり、ライオン、清水建設、大日本印刷、損保ジャパン、日本テレビ放送網、練馬区立美術館、ノマ、群馬日仏協会、(オフィス)ボーリジョン

5/26(日)14:00-15:30 には鹿島茂氏によるギャラリートーク、5/19(日)14:00～「クレールさんに聞く、フランス・ナントの町あれこれ」、5/21(木)、14日(火)、6/15(土)、23日(日)各日 14:00～14:30 学芸員による作品解説会、5/18(土)、6/8(土)各 14:00-14:30 子供ギャラリートークなど盛り沢山のイベントとなっております。

また 2013 年 4 月 29 日(月・祝)には群馬日仏協会が中心となり、ブリオコロレーションに協力していただき、オープニングセレブーション及び成田達樹さん

のヴァイオリニコンサートを行います。成田達樹さんはエリザベート国際コンクール第 2 位他、現在パリ国立音楽院在籍しております。

5/26(日)14:00-15:30 には鹿島茂氏によるギャラリートーク、5/19(日)14:00～「クレールさんに聞く、フランス・ナントの町あれこれ」、5/21(木)、14日(火)、6/15(土)、23日(日)各日 14:00～14:30 学芸員による作品解説会、5/18(土)、6/8(土)各 14:00-14:30 子供ギャラリートークなど盛り沢山のイベントとなっております。

イベント情報

フランスにおける、アート・プロジェクト SOTO(フランス・ブザンソン)

アート・プロジェクト SOTO(フランス・ブザンソン) projet soto
会期: 2013年4月2日[火]—15日[月]

このプロジェクトは、このプロジェクトは、「外」というコンセプトをめぐる4つの企画—3つの展覧会とパフォーマンス・ツア—により構成され、ブザンソン美術大学(ISBA)をメイン会場として、フランス各地で、日本における現代アートの一侧面を紹介するアート・プロジェクトです。

11人の日本人若手作家を紹介。うち4人をフランスに招いて行われます。ISBAと群馬日仏協会の共催で、在日フランス大使館/アンスティチュ・フランセ日本の後援と、フランス・日本における様々な美術団体の協力を受けて開催されます。

参加アーティスト: 狩野仁美、犬飼美也妃、キュンショメ、野澤健、野本翔平、八木毅、若木くるみ、井澤由花子、新藤杏子、長坂絵夢、吉川菜津乃
キュレーター: フレデリック・ヴェジェル



入会のお説明

群馬県在住または出身、在勤、在学経験のある方で日仏交流に関心のある方ならどなたでも入会することができます。

会員の種類と年会費について

入会金は一律 1,000円
(1) 個人会員 年額 3,000円
(2) 法人会員 年額 10,000円×口数

入会の方法

- ホームページから 協会HPの「入会申し込み」ボタンよりお申し込み下さい。
- 電話で 事務局に「入会希望」の旨、お電話ください。
入会金及び会費は所定の口座にお振込み頂くか事務局までご持参下さい。
手続き終了後、会員証を発行致します。
- お振込先 群馬銀行 横町支店(店番号101)
普通預金 1331623 一般社団法人群馬日仏協会 会長 牛久保 雅美

群馬日仏協会
〒371-0801 群馬県前橋市文京町 1-47-1 株式会社すいらん内
<http://www.fj-de-gunma.com> Tel:027-223-6311 Fax:027-221-5909

※本誌に掲載されているイベント、ツアーは社会情勢・諸事情により中止されることがあります。あらかじめご了承ください。

C'est la Vie!

セラヴィ

C'est la Vie!

題字: 久保繁造

第5号会報発刊に寄せて

ご挨拶

この度、一般社団法人群馬日仏協会・会報第5号を発刊致します。

早いもので、群馬に日仏協会を設立するというお話を聞き、微力ながら設立に協力し、前橋の歴史的建造物・臨江閣で多くの大使館及び群馬県内行政関係者、そして沢山の会員の方々と共に設立総会を開催してから、既に3年が過ぎました。現在では個人法人会員合わせて約250名の会員が在籍するまでとなりました。

ご承知の通り、歴史的に群馬はフランスとの関係が最も古い地域です。富岡市には、フランスとの文化産業の歴史を今でもしっかりと伝える「富岡製糸場」が現存し、今は世界遺産登録に向けて様々な活動を続けられていると聞きます。現在でもサンデンや小倉クラッヂ、ミツバなどの企業はフランスに工場進出をし、その地域になくてはならない基幹産業として日本とフランスを繋いでいます。

そしてフランスの代表的企業であるダノンが館林市に製造工場を持ち、私が代表を務めるミシュランタイヤは太田市に約20年前よりミシュラングループの3重要研究開発拠点の一角を担うセンターとしてそこにあります。

ますます会員拡大及び事業拡大を続ける当協会に対しまして、会員の皆様をはじめ、多くの方々の一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、ご挨拶とさせて頂きます。

協会設立以来、大変活発に様々な事業を年間を通じて行っていますが、特に一昨年から群馬県と共に開催する「ぐんまフランス祭」は群馬県内外から沢山の人を集める一大事業になりつつあり、昨年は3日間で3200人がこのイベントを訪れ、フランスへの関心の高さをあらためて認識することとなりました。

このオープニングセレモニーには、在日フランス大使館クリスチャン・マセ大使及び大使夫人も参列され、大澤正明

群馬県知事と共にテーブルカットが行われました。またSOPPEXA(フランス農水省管轄フランス食品振興会)の積極的な協力を頂くようになり、一層のフランス企業やフランス関連事業者の出店充実を期待するものです。

更に来る4月29日には、群馬県立館林美術館でのフランス作家の企画展で、初めて群馬日仏協会がその一部を協力をさせて頂くことになり、設立時より支援をする若きヴァイオリニスト・成田達樹君のコンサートを関連事業として開催致します。成田達樹君は現在、パリ国立音楽院に在籍しエリザベート王妃国際音楽コンクールにてバイオリン部門2位を獲得し注目をされています。また、同日オープニングセレブーションを当会で設営致し、文化芸術と地域交流のお手伝いをさせて頂きます。

今後更なる群馬とフランスの多面的な交流を促進すべく、一般社団法人群馬日仏協会が先頭となって、微力ながら交流促進の一端を担ってまいりたいと思います。

ますます会員拡大及び事業拡大を続ける当協会に対しまして、会員の皆様をはじめ、多くの方々の一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、ご挨拶とさせて頂きます。



一般社団法人群馬日仏協会
副会長 ベルナール・デルマス

会員の横顔

個人会員プロフィール Vol.5

パリのサブカルチャーとの出会い、趣味とライフスタイル

一般会員 岩崎久永



イベントやピクニックを楽しんでいます

『パリのサブカルチャーとの出会い』

大学生だった頃、折りしもデザイナーズファッションの大ブームが。当時、パリでも旋風を巻き起こした“コムデギャルソン”に心酔していた私は、そのブランドの発行したアートマガジン“Six”のあるページが目に留りました。

そこに掲載されていたのが“ジャン・コクトー”。詩人であり稀代のマルチアーティストであったコクトーは、洋服の着こなしでも個性を放つ存在。

その細く長い指先を強調するかのように、ジャケットやシャツの袖を必ず捲り上げ、ポーズを取ってみせる。

さらにコクトーに興味を持った私は、画集や著書、

映画を観ていく内に、サンジェルマン・デプレのカフェ文化に辿り着きました。

さらに、以前から60年代のポップなサブカルチャーや音楽に興味があった私は、時代の寵児ボリス・ヴィアンを経由して、“セルジュ・ゲンスブル”の存在を知ることに。



フランスギャルやフランソワーズ・アルディ、ブリジット・バルドーなどのプロデュースや楽曲提供しながら、映画の監督、俳優、演出もこなすマルチな才能ぶり。そして、その“粋な”ライフスタイルや、影響力のある発言(時にスキャンダラスな)に釘付けに。

『趣味とライフスタイル』



そんな60年代(特に五月革命以前)のパリのカルチャーに影響され、音楽(イエイエ)を聴きまくり、カフェ・ビストロで使われた“水差し”や

“灰皿”“ブリキの看板”などのプロカントを収集し、生活の中でも“フランス的”を楽しむように。

また、生来のクルマ好きが高じてフランス車を愛好していました。以前から、スポーツカーよりも大衆車や商用車を好んでいた故、約20年前に所有した“ルノー・エクスプレス”(ライトバン)から始まり、クラシック・シトロエン“Am i 8”、そして現在“シトロエン2cvドーリー”と、フランス本国仕様を取り寄せた“ルノー・カングー・ブリザリージュ”を手に入れ、日常はもちろん、イベントやピクニックを楽しんでいます。

加えて、映画“僕の伯父さん”でおなじみのフランスのモベッド(ペダル付きバイク)“ヴェロ・ソレックス”を手に入れ、メンテナンスに明け暮れています。

いずれも、目で見たパリの街角の光景や、ゴダール、トリュフォー、タチなどの映画のワンシーンから強く影響を受け、所有に至った次第です。

・・・そんな“仮想現実的パリ暮らし”から、“リアルなフランス”に触れるために、当協会へ入会させて頂きました。

今後活動を行っていく中で、よりフランスへの理解と想いを益々深めて参りたいと思います。

Profile

※順不同

法人会員プロフィール Vol.5

株式会社原田 ガトーフェスタ ハラダ

私達、ガトーフェスタ ハラダは創業より110余年の永きにわたって皆様よりご愛顧いただいております。

和菓子製造業者として発足、製パンに着手したのは配給パン時代の昭和21年、以来今までガトーフェスタ ハラダの高品質なパンは、姉妹品の洋菓子、和菓子とともに多くの皆様に定評をいただけておりました。こうした、パン作り60余年の研究と経験からパンの奥義を極めて究極のフランスパンに到達、そのフランスパンを用いて完成したのが、美味極上のラスクとご好評をいただいているガトーラスク「グーテ・デ・ロワ」でございます。

どうぞ、ガトーフェスタ ハラダの感動の銘菓を、お世話になった方へのお礼、手みやげ、慶弔のお配りもの、お歳暮やお中元の贈り物に、あなた様の真心の使者としてお選びください。先様にお喜びいただけるものと存じます。また、ガトーフェスタ ハラダのお菓子の殿堂へ、お立ち寄りくださいますよう、心よりお待ち申しあげております。



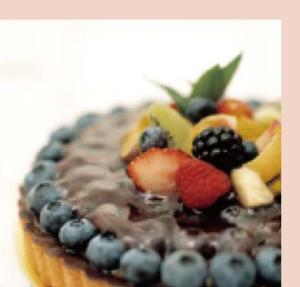
<http://www.gateofesta-harada.com>

パティスリー Miyake

パティスリー Miyake は、1986年創業で当時はまだ少なかった洋菓子専門店からスタートしました。5年後、現在地に店舗を構え、地域の皆様に愛されるお店を目指しております。

修行時代(現シミュマンドールズスキ)は、料理人としてスタートし、後にレストランのデザートを担当するパティシエとして10余年来経験致しました。レストランで学んだ多くの知識、技術を礎に「時間的な美味しさ」を追求しております。

群馬日仏協会会員として「フランス菓子」を通して会員の皆様に様々なイベントを計画しております。楽しいひと時を会員の皆様と共にできることを楽しみにしております。



<http://www.miyanet.com>

(株)ニューコロンブスツアーズ

旅行の仕事は非常に楽しい夢を売る仕事です。韓国から南極まで、世界80ヵ国訪れたオーナー宮崎の経験を生かし、個々の希望にあった手配旅行を得て案内、ご提案をしてきました。実は、仕事をしながら趣味を増やしています。

海外のスキー場を案内するには自分もスキーが出来ないといけないと50才からスキースクールに通い腕(足?)を研ぎ、海外の山を案内する為了にトレッキングも。さらに写真の愛好家を案内してするうちに一緒に写真を撮り始め、いまや私も写真愛好家(?)になってしましました。

趣味のテニスを生かし、4大タイトルのローランギャロスの全仏オープンに行きましょう。とか世界で一番雄大なスキーフ、フランスのパリセールやトロアバレーに行って滑りましょう。とか何かにつけては、フランスに行くチャンスを増やし、フランスに訪れた回数は數十回におよびます。

35年くらい前にフランスで一ヶ月レンタルカーサントリーフードを借りて、フランスを中心ドライブした事が、通常の旅行では味わえない提案を出来る要素になっております。

まだまだ、楽しい旅行の仕事を続ける為には、だから、やっぱり趣味のテニスを一生懸命やって、身体を鍛える日々を送らなければならないのです。

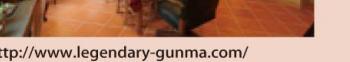


レジデンダリーホーム

レジデンダリーホームの家は「50年後もっと素敵なお家になっているために」というコンセプトのもと、年月を重ねてゆっくりとアンティークになり、味わいを増していく家を作っています。

当社の建物、インテリアは、フレンチスタイル・カントリースタイルなど多彩な表情を持つております。設計にはデザイン様式・ティールにて至るまで徹底的にこだわり、オーナー様の個性を表現します。オーナー様が一番気になるキッチンは、すべてハンドメイドのオーダーメイドが標準仕様です。家具、照明、ガーデニングを含めたトータルコーディネートも提案しておりますので、統一感のある素敵な空間を予算内で仕上げることも可能です。

また、床下蓄熱冷暖房システムや、結露ににくい木製サッシ、優れた調湿性を持つ羊毛断熱や発泡ウレタン断熱も標準仕様で、住み心地にも妥協はいたしません。またリバーション(デザインリフォーム)なども手がけております。お気軽に見学会やモデルハウスへ足を運んでください。



<http://www.legendary-gumma.com/>

協会レポート

協会レポート 飲食部会長 山崎健一

第1回フランスワイン・セミナー

群馬日仏協会、飲食部会では来る6月22日(土)に第1回フランスワイン・セミナーを下記の通り開催致します。今回は1回目ということで、一般向けの内容で行う予定です。

●1部では講師の方をお迎えしてワインの知識を学んでいただく予定です。

カリキュラム

- ①「ワイン」ってどんなお酒?
- ②ワインの味わいを決めるものは?(香味にかかる3つの要素)
- ③ブドウの品種と特徴を知ろう
- ④ワインをどう選ぶ
- ⑤もっと美味しい飲むには

といった内容でワインの基礎知識を学んでいただきます。

●2部ではワインと一緒に軽食を摂りながら、フランスワインパーティーを行います。普段何気なく飲んでいるワインも、ちょっとした知識を得るだけで味わいも一段と変わることと思います。当日は、バス送迎もございます。ワインに興味のある方は是非ご参加ください。

開催日時 2013年6月22日(土) 受付16:00~16:30

1部 16:30~17:30 2部 17:30~18:30

会場 伊勢崎プリオパレス サントアムール教会
伊勢崎市昭和町3827 TEL: 0270-25-4122

会費 3,500円

※バス送迎 詳細は募集メールにてお送りいたします。



会員レポート

会員レポート 副事務局長 都丸秀雄

絵画教室と群馬日仏協会

美術館を訪ねることが好きで、東京等で開催される展覧会にはもう長いこと足を運んでいます。ライフワークとしての趣味を探していたその折に、知人に誘われて、絵画教室の講座を平成21年8月に無料体験しました。あ、これだ!と感じて、その日に即ちいらんアートスクール校長、梅津宏規さんの講座の受講を申し込みました。

梅津さんは長いこと、フランスと交流を続けており、その梅津さんが役員の群馬日仏協会が設立されたときに即ちいらんアートスクール校長、梅津宏規さんの講座の受講を申し込みました。協会の行事を何かと身近に感じていたのです。協会の行事に参加するうちに自然と事務局も手伝うようになりました。シニアにならたら何か地域の為にやりたいと思い描いていたので長年の夢が叶ったおもいです。

今取り組んでいる油彩画(フランス



フランス・カジス近くのマリンランドを制作中です

スの風景、他好きなテーマ・食(フランスのジャム、パン、チーズ教室)・

フランス大使館訪問・フランス祭り・

群馬在住のフランス人アーティストとの交流などを通して、折に触れて

その活動に参加し、フランスを感じています。

フランスを通して海外の生活や芸術文化に触れたり、ボランティア活動で仲間とのコミュニケーションが図れます。

読者の皆様是非その活動に参加してみませんか。一般社団法人群馬日仏協会の行事はホームページで詳しく紹介されています。



キクちゃんカフェ フランス日記

Vol.5

ろうそくとクレープ

こんにちは。パリは毎日寒い日が続いています。
皆さんお元気ですか?



日本の節分の前日、クリスマスから40日後にあたる2月2日は、la Chandeleur(ろうそく祝別日)という、聖母マリアの清めの日です。本来ならば、ろうそくの日となるのでしょうが、フランスでは、クレープを食べる日ということで定着しています。この日にろうそくを灯す理由としては諸説あるようです。もともと、ローマ時代には神を祀るために松明を燃やす風習があったという説。“人類の光”となるキリストを祝して、ろうそくを手に行列したためとか、聖母マリアの清めの儀式で人々がろうそくを灯し続けて見守ったためなどの説があります。また、フランス語のfevrier(2月)という動詞で「feu nouveau(新しい火)」と関連しているとも言われています。

では、なぜ、この日にクレープを食べるのか?長い冬が終わって、春になると天気がよくなり、太陽ができる。丸く大きく、黄色のクレープは、太陽のように見えるからという説や、教皇が、この日に人々にクレープをふるまつたからなど、これまた諸説あるのです。

フランスでは、この日に、一年の幸運と繁栄を願い、手にコインを握りながら、クレープを焼く慣わしがあります。左手にコインを握って、右手でクレープを高く放り投げて、うまくフライパンで受けとれれば、来年の2月2日まで、幸運が続くと言われています。

コインも、丸く黄色いクレープみたいですよ。2月2日以外にも、フランスでは、マルディ・グラ、謝肉祭最後の日にクレープをいただきます。

群馬日仏協会のブログや、フランス祭などでおなじみのクレープ。フランスには、甘いクレープと甘くないクレープがあるのは、ご存じですよね。甘くないクレープは「ガレット」と呼ばれます。フランスの北西・ブルターニュ地方の郷土料理で、やせた土地でも収穫できるソバ粉を水で溶き、塩を加えた生地を薄く焼いたものに、チーズやハムなどをのせたものです。フランスのクレープ屋さんで、ガレットと注文すればそば粉。クレープと注文すれば小麦粉でできた生地のクレープが出てきます。

私はいつも、ガレットコンブレ(卵ハムチーズ)、デザートにはバターとお砂糖のクレープを注文します。フランスでは、バターとお砂糖のクレープは一番人気です。飲み物は、リンゴのお酒「シードル」。アルコールが苦手な人は、リンゴジュース。ガレットコンブレは、タバコ質は完全ですが、野菜が足りないのでよね。お好みでグリーンサラダを注文しましょう。

ご自宅でも簡単にできるクレープ。皆さんも試してみてくださいね。BON APPETIT! ボナベ!



専用フライパン



岩崎基久乃(いわおかきの)
2000年からフランス在住の日本人。
元大手電気メーカー勤務のキャリアマン。
好きなものはショパンピニ、くのぬぐるみ。
針灸師の夫とフランス全土を行脚する
さすらいの恋系チキンジャー。



ガレットとサラダ